

猪名川部会のとりまとめについて

主な検討項目に対する意見案

1 狭窄部

目標とする降雨の規模（説明資料では既往最大）に対して（関連：ダム-22）

意見案：既往最大ではなく、S28年規模に対する浸水被害軽減を目標とする。

意見案：住民を入れて決めるべき。（どのような決め方があるか？）

浸水軽減策（関連：ダム-22）

意見案：開削も含めて可能な限り代替案を検討すべき。

2 余野川ダム

まとめに対して（ダム-22）

- ・狭窄部上流の浸水被害軽減のための代替案の検討

意見案：今後も検討を続けるべき（どのような代替案を検討すべきか？）

- ・一庫ダムの利水容量の振り替えについて

意見案：余野川ダムへの振り替えの代替案として、府営水道から水をもらう案もあるのではないか

今後の調査検討項目に対して（ダム-23）

- ・自然環境に対する影響調査に対して

意見案：余野川ダムサイトの環境特性を把握するための調査が必要。（どのような調査が必要か？）

意見案：余野川ダムサイトの環境特性にダム建設が与える影響をどのように改善するかを検討すべき。そのためには、どういう生態系を残すべきかを考える必要がある。

検討の方法、社会的合意について

意見案：余野川ダムについて、流域委員会とは別の検討委員会で検討すべき

意見案：ダム建設に関する社会的合意についての基準、考え方も説明資料に記すべき

3 猪名川全体に関する事業について

環境

猪名川の河川環境に関する基本的な方向性

- ・里山をめざした環境再生の方法は？

意見案：「泳ぎ、ふれあえる里川」をめざして、下記の施策を重点的に強化すべき。

- ・ふれあえる自然を取り戻すための施策（横断方向の連続性の回復、ワンドの再生、水質改善、外来種対策等）
- ・川へのアクセスの強化（軽微な道をつくる等）
- ・住民との連携の強化（野草教室等の環境教育の充実、事業検討や維持管理への住民参加等）

個別施策について

- ・横断方向の連続性の回復（河川形状）（環境-14）

意見案：説明資料（第2稿）で「検討」とされている下加茂地区以外の地区も検討の候補に加えるべき。

- ・魚道（環境-23,24,25）

意見案：どの魚種を対象とした魚道とするのか現状を踏まえ検討した上で整備すべき。

意見案：利水の精査・確認の結果を踏まえて堰の統廃合、取水量等を検討すべき。

- ・水質（環境-54）

意見案：空港川との連続性確保の検討の際には、空港川の水質改善も併せて行うべき。

- ・外来種対策（環境-55,56）

意見案：利用価値を把握した上で、有害なものを駆除すべき（有害なものの判断基準は？）

意見案：帰化率日本一の猪名川ではより積極的な対策が必要（具体的な対策は？）

治水

土地利用の規制、誘導について（治水-1,2）

意見案：猪名川は特に流域の開発が進んでいるため、これ以上危険な地域に家屋をつくらせない、また、洪水の際には速やかに避難できるよう、より徹底した浸水想定等の情報提供や土地利用の規制、誘導への着手が必要である。

流域における貯留機能の強化について（治水-1）

意見案：現在の浸透、貯留能力を維持する方策も追記すべき。

利用

河川敷利用について（利用-6）

意見案：既に多くがグランド等として利用されている猪名川では、原則として新設を認めるべきではない。

意見案：既存施設を縮小し、自然とふれあえる場にすべき。縮小にあたっては、“川が川をつくる”ことのできる場所や利便性の高い場所を優先的に縮小していくべき。

今後の進め方

< 部会のすすめ方(案) >

